

塗り壁



塗り壁とは、左官工事で仕上げる日本の伝統的な工法で、湿式工法と呼ばれています。継ぎ目のない一体の壁面を作ることができ、防火性・断熱性に優れ、調湿性があるなどの特徴があります。調湿性は室内に湿気が多いときは素材が湿気を吸収し、乾燥期にはこれを放出するので、結露防止や適度な湿度の維持に効果があるとされ、日本の気候風土に適しています。施工が簡単、工期が早い、低価格などの利点から、クロス貼り仕上げが最も普及していますが、刷毛、コテやローラーなどでさまざまな表情を楽しむことができ、また、最近では健康への配慮、自然志向から見直され、その中でも、自然素材を利用した消臭機能が高い珪藻土、消石灰を原料とした漆喰などが最近の人気素材です。尚、塗り壁は、真壁構造の本格的な和室には欠かせない壁材です。

<塗り壁の種類>

① 漆喰



塗り壁とは、左官工事で仕上げる日本の伝統的な工法で、湿式工法と呼ばれています。継ぎ目のない一体の壁面を作ることができ、防火性・断熱性に優れ、調湿性があるなどの特徴があります。調湿性は室内に湿気が多いときは素材が湿気を吸収し、乾燥期にはこれを放出するので、結露防止や適度な湿度の維持に効果があるとされ、日本の気候風土に適しています。施工が簡単、工期が早い、低価格などの利点から、クロス貼り仕上げが最も普及していますが、刷毛、コテやローラーなどでさまざまな表情を楽しむことができ、また、最近では健康への配慮、自然志向から見直され、その中でも、自然素材を利用した消臭機能が高い珪藻土、消石灰を原料とした漆喰などが最近の人気素材です。尚、塗り壁は、真壁構造の本格的な和室には欠かせない壁材です。

② 土壁



土壁とは和風建築の伝統的な壁のひとつで、土を使用して作られる左官仕上げの壁の総称です。また、(京壁)とも言われ数奇屋建築や茶室の壁に用いられています。上塗りの土によって(じゅらく壁)や大津壁(大津壁)などがあり最近、自然素材として見直されている(珪藻土壁)も土壁の一種です。

(1)じゅらく壁

もともと京都付近に産出する土を用いた塗り壁仕上げのことでしたが、現在ではキメの細かい砂壁状の仕上げの表面状態をさして言うことが多いようです。耐火性に優れ、年月を経過しても変わらない温かみのある独特の風合いが好まれています。

(2)珪藻土

珪藻土とは、海や湖などに生息していた単細胞の植物プランクトンの死骸が堆積してできた土層から採取されるもので、シックハウスの原因といれるホルムアルデヒドの吸着分解をはじめ、保温性・断熱性に優れ、多孔質であることから、遮音性・吸湿性・吸放出性も高く内装用として用いられています。最近では石膏ボードに直接塗りつけられる商品やビニールクロスの上に塗ることができるものも出ています。また、珪藻土を使ったタイルも出ています。

③ その他 (塗り壁)

